

## 編集後記

藤嶽講師  
一楽講師  
松井講師  
安藤講師  
尾畑講師  
三明助教授  
樋口講師  
樋谷教授  
白井教授  
小野教授  
神戸教授  
江上助教授  
安富教授  
延塚助教授

『親鸞教学』第62号をお届けします。  
今回のアルフレッド・ブルーム教授の論稿は、国際真宗学会の学会誌『The Pure Land』の論文を、樋口章信先生が翻訳してくださったものです。掲載を許可していただいたブルーム教授、国際真宗学会、並びに翻訳の労をとっていただいた樋口先生に感謝いたします。また、安富信哉先生の著作『親鸞と危機意識』の書評を、東京工芸大学教授の加藤智見先生からいただきましたので、併せて掲載いたします。

思われるが、ただ私たちが現代直面しているのは歴史的事実の推移というよりも、既成の価値観・世界観では間に合わなくなっているということである。

経済的繁栄を至上価値として生きてきたことが、地球規模での破滅を推進するということを目の当たりにして、ようやく私たち自身の生き方と在り方が問われる状況にある。それはイデオロギーや文化の問題というよりも、人間中心主義・自己中心主義という前提そのものの持つ犯罪性を、人間共通の問題として見据えていくということである。

親鸞は『教行信証』化身土巻で『無量寿経』の教説によって、人間の求める幸福を「胎生」という言葉で、夢の中で眠っている状態として、象徴的に示しているが、「全てが人間の思い通りになるはずだ」という、欲望拡大に基づく進歩や発展という幻想から醒めることが、現代の私たちにとって大切なことであると思われる。

(文責、安藤)

現代は世界的にも国内的にも一つの大きな転換期にあることを、誰もが実感しているときであろう。もちろん、歴史というものは常に動いているのだから、このようなことを強調する必要はないとも